

健康まつりを成功させ、強化月間の躍進を!

千曲川のにじ

発行 / 東信医療生活協同組合 〒386-0042 上田市上塩尻393-1 TEL 0268-28-1085 FAX 0268-28-6085 E-mail sosiki@dolphin.ocn.ne.jp

- | | | | |
|------------|--|--------------------|-------------------------|
| ■ 上田生協診療所 | TEL 23-0199 FAX 23-0449
http://www.toshin-iryuu.com | ■ 上田生協訪問看護ステーション | TEL 22-3055 FAX 23-5311 |
| ■ 川西生協診療所 | TEL 31-1411 FAX 31-1416 | ■ ヘルパーステーション「にじ」 | TEL 29-2811 FAX 75-2595 |
| ■ さかき生協診療所 | TEL 82-0101 FAX 82-0102 | ■ 元気倶楽部 まゆ (通所介護) | TEL 22-3248 FAX 75-2595 |
| | | ■ 居宅介護支援事業所 | TEL 23-0244 FAX 23-5311 |
| | | ■ 悠々倶楽部かみしな (通所介護) | TEL 22-5445 FAX 75-8629 |

楽しく、いきいき 地域の絆を 深めよう

強化月間スタート

思い切った対話の飛躍を

支部活動交流集会
8月27日 しんきんホール



健康づくり委員による健康体操



講演する庄内医療生協の
松本専務



参加者もいっしょにリラックス

今年度は、2012年度からの新5カ年計画策定に取り組み、その中で経営基盤の安定に向けて新しい医療・介護施設の展開などが検討される予定です。それらに備えるためにも、地域の要望を聞き、対話を広げ、地域まるごと健康づくりをめざす医療生協の組織強化への協力を訴えていきます。楽しく、いきいきと地域に絆を広げていきましよう。組合員の皆様のご協力をよろしくお願ひします。

医療生協強化月間は、9月を皮切りに全国いっせいにスタートしました。東信医療生協も10・11月を本番に組合員増やし、出資金増やしを中心に強化月間を推進していきます。月間スタートの号砲と言うべき「支部活動交流集会」が8月27日、上田しんきんホールで開かれました。

庄内医療生協専務理事・松本弘道氏による「組合員さん主体の生協活動」の講演を聞き、中沢専務理事が強化月間方針(要旨2面掲載)を提起、支部活動報告もあり、集まった78名が学習と交流を深めました。

医療生協を語り、助け合い・支え合いの社会を広げ、仲間づくりをすすめよう

強化月間がスタートします 新しい組合員の紹介と 出資金に協力をお願いします



中沢 専務理事

専務理事 中 沢 裕 一

切さが見直され、医療生協での助け合いや支えあいの活動が、より一層大切になっていきます。

今年度の強化月間は、第1の目標として、対話を中心に医療生協を語り、多くの方から出資金を募ります。また、医療生協の健康観を広げ、新班会開催や班会開催班を増やします。第2の目標として、組織をより強固にすることによって、事業に参加する人を増やし経営の安定化をめざします。いのちの大運動(出合い・ふれあい・支えあい)を通して、地域の絆を深めるよう取り組みます。新しい組合員の方に、医療生協の健康観を語る機会でもあり、出資金は医療生協の事業展開を含む経営基盤強化に役立てます。

震災による困難や不況、円高、政治の混乱など、先が見通せない時期だからこそ、医療生協を大きくし、医療生協の活動を地域に広めることが求められています。組合員の皆さんの協力をお願いします。

2011年度は、3月11日に発生した東日本大震災の復興活動が続き、福島原発の事故による放射能被害などの下で取り組まれます。地震の被害の中で、地域社会の結びつきの

具体的な取り組み(要旨)

● 月間目標

新加入 800名
出資金 1600万円

● WHOが提唱する「高齢者にやさしいまちづくり」チェック活動に取り組み、地域要求を掘り起こします。

● 10月23日(日)に開催する第22回健康まつりを成功させます。

● スーパーなどの一角で、「まちかど健康チェック」を実施し、医療生協の活動を地域に広げます。

● たまり場づくりを推進し、昼食会や茶話会など、生きがいづくりをめざします。

● 11月3日にヘルスアップチャレンジ「諏訪湖周遊ウォーキング」に参加します。

● 「平和学習会」を開催するとともに、「脱原発」署名活動に取り組みます。

● 班会で、原発事故や放射能被害、エネルギー問題などの学習班会や健康ファイルを使った班会に取り組みます。

3支部から活動報告



古市 真田支部長

での取り組み等について、城下東支部 中本支部長から「小学校の行事に合わせたまちかど健康チェック」等について、青木村支部堀内支部長からは「担い手が増えたことで支部活動が活発化した」と題して活動報告があり、各支部への大きな励ましとなりました。

支部活動交流 集会では、真田支部 古市支部 長から「まちかど健康チェック

医療生協 2011年ヘルスアップ企画

諏訪湖周遊ウォーキングにチャレンジしよう!

- 開催日 2011年11月3日(木)
- 集合 午前7:30 上田生協診療所〔バスで諏訪湖畔へ〕
- 料金 2,000円
- コース ① 1周 16km ② 半周 8km〔事前申告〕
- スタート 午前9:30 諏訪湖畔公園
- 申込み 東信医療生協 清水まで TEL 0268-28-1085
- 締切 10月17日

主催：上伊那医療生協 協賛：長野・東信

支部活動交流集会

庄内医療生協松本専務の講演から

支え合い助け合える

まちづくりをめざして

四課題推進委員長 宇仁 経 武

去る8月27日「しんきんイベントホール」に各支部から78名の組合員が集って第六回支部活動交流集会が開催されました。

山形の庄内医療生協からお迎えした松本弘道専務理事の「震災が教えた共同組合の力・確信をもって広げよう」との講演は私達に大きな衝撃を与えました。講演の中で、自らの復興支援活動の体験に触れながら「日本では経済至上主義の風潮が人と人とのつながりを薄れさせ地域社会の脆さをつくり出してしまっている。そのことが震災の被害を拡大させ復興を遅らせている。今『支え合い助け合えるまちづくり』を目指して医療と介護の事業を展開し、地域ぐるみの健康づくりへ挑戦している医療生協への期待は高まっています。」と訴えました。

さてわたしたちが、どのように取り組みを始めるのかは、既に中沢専務理事から「強化月間方針」で示された通りです。

我が医療生協で今年度は去年の「デイケア施設建設」などという目標がある訳ではありません。松本弘道氏のお話では、獲物を狙った狩猟型から農耕型の活動に切り替えて運動が大きく広がり新たな展望が開けたと言います。「耕し育てる」ことの大切さ、この教訓は我が生協でも生かして行きたいものです。今年もまた「まちづくり」がどこまで前進できるか、少し視野を大きくしてロマンを追求して行きたいものです。

月1回避難訓練を

行っています

日頃、大変お世話になっております。

地域の皆様、ボランティアさんに支えられ「元気倶楽部 まゆ」は4年目を迎えることができました。景色、施設のたたずまい、すばらしい環境の中で仕事が出来ますことに感謝しています。今年まゆでは下記の二点について重点的に取り組んでいます。一つ目は『防災』です。家具の転倒防

「元気倶楽部 まゆ」です

「悠々倶楽部 かみしな」です

ボランティアさんと

おやき作りを楽しむ

花札を楽しむ方、テレビを見ながらほかの利用者様と会話を楽しむ方、せつせと雑巾を縫ってくださる方、中には英会話の勉強や麻雀を楽しむ姿も…。ここ『悠々倶楽部 かみしな』では様々な過ごし方をする方がいます。

「家にいるのが一番いい」と言っていた人が何回目かの利用で、「家にいれば話をすることはない、ここに来ると同じような年の人と話ができる。」と明るい笑顔に変わったたり。

止、また月1回、火災を想定した避難訓練を行っています。北側、南側どちらにも出られるように訓練しています。二つ目はたまり場作りです。空き部屋となっていた十畳二間が、『たまり場まゆ』として整備されました。塩尻地域、利用団体皆様のご協力により防災カーテンを購入し、流し台が設置され、活発な班会活動、まゆ利用者さんとの交流に使われています。多くの皆様のご利用をお待ちしています。



あやめ会のみなさんと抹茶を楽しみました

(元気倶楽部 まゆ所長 深町 雅子)

介護事業所だより

家に帰りたいとしきりに言っていたAさんが、ボランティアさんとおやき作りを始

めたら、「昔とった杵柄」とばかりとても生き生きとした表情で次々と生地にあんこを包んでいました。

かみしなで偶然、懐かしい再会をしたり、「この年になって友達ができるとは思わなかった…」といううれしい声も聞かれます。

改めて人と人とのつながりのパワーを感じています。スタッフ一同そのお手伝いができることに喜びを感じ、医療生協らしいその人を尊重したサービスを心掛けています。

(悠々倶楽部 かみしな所長 橋爪 美由起)



おやきづくりを手伝いました

原水爆禁止2011年世界大会に参加して

66年前の悲劇も

「原発問題」も同じ

看護師 堀内あゆみ

今回、初めて原水爆禁止長崎世界大会に参加させていただきました。私はこの大会に参加して、世界中からの多くの参加者にびっくりしました。

今まで戦争と平和について、新聞やテレビで触れる機会が多かったと思います。また、祖父が戦争経験者でもあり、小さい頃から戦争の恐ろしさや悲惨さを聞いてきました。しかし、平和ってなぜ大切なんだろう？と具体的に考えたことがありませんでした。世界大会に参加する前は、平和は大切！という漠然とした考えでしたが、原爆が投下された長崎県に実際に訪れ、見て・聞いて・感じて、歴史に触れることでより具体的に平和の大切さを改めて学ぶことが出来ました。

とても印象に残ったのが、原爆資料館で原爆について学んだ事です。およそ1kgのプルトニウムが何万人もの命を奪うという原爆の恐ろしさを実感しました。また、原爆で奇跡的に生き残った人でもその後遺症に苦しみ、死んだ人のほうが幸せだったのでは？と言う人がいました。熱

かった、苦しかったというより自分が外見に変わり果て、周りの人に避けられることがとても辛かったというお話を、資料館の平和案内人さんから聞きました。せっかく、生き残った命でも一生被爆者として生きなければならず、人生の喜び事、例えば結婚・妊娠など……常に不安が付きまとい、心の傷は一生癒えないということを知りました。

今、問題になっている原発のことと核兵器については、別に考えていました。福島での原発事故は多くの被爆者を出し、66年前の悲劇を再び繰り返しており、決して核兵器と原発の問題は切り離せないと思えました。

原爆での被爆者は、今回の原発事故により被曝し同じ思いをしている

方が多く居ると思うと本当に悲しいと言っていました。私は、だからこそ危険な放射線を扱う原子力発電も、核兵器もなくなさなければいけない！と強く思いました。

今回の、原水爆禁止世界大会に参加してみても1人の力が万人もの力になること。世界中が力を合わせて声を上げていくことで、大きな力になると思いました。1人だけで平和について考えていても、なかなか広がらないのですがこのような大きな会に参加し、多くの人が世界平和に関心を持ち、広げていくことで結果的に核兵器のない世界を作る大きな一歩になるのではないかと感じました。このような機会を与えてくださった皆さんに感謝しています。

「今でも土の中から骨を見つける」

介護福祉士 早川 礼

長崎で行われた原水爆禁止世界大会に初めて参加させていただきました。今までこのような大会が行われていることを知らなかったのですが、とても興味を持ち参加することができました。

まず、会場である長崎市民会館に到着し、予想をはるかに上回る人の多さにとても驚きました。日本だけではなく、世界各国からも平和や



核兵器廃絶などの同じ願いを持ってこの大会に参加していることに、改めてこの大会が開催される重要性を感じました。

今回、私は長崎を訪れるのも初めてでした。広島や長崎での原爆については、学生時代に勉強した程度で、今まで学習する機会もなく通り過ぎてしまった気がします。そんな中、このような機会をいただき、開会式前には原爆資料館を始め、永井隆記念館（如己堂）、平和祈念公園など様々な主要箇所を巡ることができました。原爆資料館では、実際にガイドボランティアさんからの説明を受けながら、資料や写真を見学することができました。その中には、目をつむりたくなくなるような情景が並び原爆の悲惨さに衝撃を受けました。「たった1kgのプルトニウムがすべてを奪った」という言葉には、核兵器の恐ろしさを身にしみて感じました。

見学を通して、自分が今まで原爆



原爆資料館前にて 左：堀内 右：早川

医療の話



東信医療生協の在宅医療について

②どこまで在宅医療

在宅についての期待と…

この連載を

始めて「わかりやすい」「リアルだ」などのご意見をいただきました。文章の巧拙よりも現状を伝えることに視点を置き、

それについて共感の

意見を持ってくださ

った方々には感謝

申し上げます。ただ

し、いくつかの点で

正確に理解していた

だきたいことを述べ

ます。

①在宅医療には家

族と本人の覚悟が必

要です。

「(記事を読んで)

私たちも在宅医療が

が可能かの厳しい判断が必要となることがあります。

私達が「在宅生活は可能」と思

うことと、皆さんが「うちでは診

れない」と思う患者さんの状態は

一致するとは限りません。この1

年余りの間にも、「もうしばらく家

にいられるのではないか」という

方々でも、家族が「入院を」と希望

され、本人の意向とは裏腹に診療

所で亡くなられた方々があります。

在宅生活が送れるかどうかは、経

済的、人材支援などいくつかの条

件があつて成り立っています。

③そもそも不十分な入院医療を補

完する「在宅」という側面を忘れ

ることは決して良い状況ではあり

ません。「入院ができないから在宅

で」という事態になることは望ま

しいことではないのですが、残念

ながらしばしば経験することです。

退院を勧める病院の医者だけが

悪いわけではありません。日本の医

療の貧困の一面が在宅を促進する

という形で現れていることを忘れ

ないでください。(矛盾しています

が、在宅が難しいと思われる患者

さんの紹介があると「よし、どう

やって立ち上げていくか」という

ことを考えるのも事実です。)

④上田生協診療所の入院病棟の維

持がかぎです。これを無視して語

るなかれ。

現在、東信医療生協はこのところ

経常赤字を生じています。今年

は黒字予算を経てましたが現状で

は達成は難しい。今後の経営に

よつては入院病棟が維持できなく

なる、そして在宅医療の分野が縮

小せざるを得ないことが予想され

に対してほとんど無知だったことを反省するとともに、これからも原爆についてもっと学習し知識を深めて行きたいという気持ちを抱きました。

また8日にはそれぞれに分かれて

の分科会があり、私は「映像のヒロ

バ」に参加しました。そこでは、原

問題を中心とした映像が流されてい

ました。東日本大震災による福島で

の原発事故問題が取り上げられてい

る昨今、知識として身につけてい

なければならぬテーマだった為、と

てもいい機会となりました。また、

その分科会会場には、広島から参加

した方もいらつしました。その

方は84歳のとても元気な女性だった

のですが、自分は広島市の平和公園の

清掃員で、掃除をしていると今でも

土の中に骨が埋まっているのを見つ

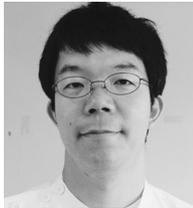
けるとおっしゃっていました。66年

経った今でも当時の傷跡や人骨が

残っていることに、いたたまれない

思いを感じました。

今回初めて原水爆禁止世界大会に参加して、66年前に起きた原爆と少しでも向き合うことができたこと、また平和というのは今ある日常そのものだとということ、身にしみて感じる事ができたことにも感謝しています。



「介護」について 第7回

東信医療生協さかき診療所長

松 澤 伸 洋

①在宅医療には家

族と本人の覚悟が必

要です。

「(記事を読んで)

私たちも在宅医療が

必要になれば、診て

くれそうだ」という

意見がありました。それは他力本願的ではないでしょうか。

在宅で生活する、過ごす前提は、患者さんと家族が自分たちで暮らしていきこうという意思であります。

「消極的な意味で在宅を選択する

場合もありますが、それでも主

体になるのは患者さん・家族です。

②どこまで在宅医療

が可能かの厳しい判断が必要とな

ることがあります。

私達が「在宅生活は可能」と思

うことと、皆さんが「うちでは診

れない」と思う患者さんの状態は

一致するとは限りません。この1

年余りの間にも、「もうしばらく家

にいられるのではないか」という

方々でも、家族が「入院を」と希望

され、本人の意向とは裏腹に診療

所で亡くなられた方々があります。

在宅生活が送れるかどうかは、経

済的、人材支援などいくつかの条

件があつて成り立っています。

③そもそも不十分な入院医療を補

完する「在宅」という側面を忘れ

ないでいただきたい。

上田地域はベッド過剰地域とい

われていますが我々からすれば事

実に反します。短期間の入院で

あつても上田の圏内では難しく、

こちらが在宅医療を勧める立場

になったり、逆に入院が望まし

いのではない患者さんが在宅

の紹介患者となることも経験し

ました。例えば、人工呼吸器を使

用中の患者さんはレスパイト入院

という短期間の家族のための入院

が必要ですが、現在私達が診てい

る患者さん達はその入院のために

佐久や松本や長野に行く必要があ

ることは決して良い状況ではあり

ません。「入院ができないから在宅

で」という事態になることは望ま

しいことではないのですが、残念

ながらしばしば経験することです。

退院を勧める病院の医者だけが

悪いわけではありません。日本の医

療の貧困の一面が在宅を促進する

という形で現れていることを忘れ

ないでください。(矛盾しています

が、在宅が難しいと思われる患者

さんの紹介があると「よし、どう

やって立ち上げていくか」という

ことを考えるのも事実です。)

④上田生協診療所の入院病棟の維

持がかぎです。これを無視して語

るなかれ。

現在、東信医療生協はこのところ



塩尻ボランティア班

たまり場まゆでは毎月ボランティア班が布切りをおこなっています。8月には元気倶楽部まゆの利用者さんも参加し、皆さんで昔話をしながら、布切りに精を出しました。



班会トピックス



城下西支部役員班

城下西支部では8月の役員会の前に写経をおこないました。一人では取り組むことがなかなか出来ない写経も班会で行うと皆さん真剣そのもの。1時間で書き上げました。



真田町支部 健康バランス班

昨年始まった班で毎月二回月曜日昼間横尾公民館で開催しています。真田町支部総会での班会発表をしたのをきっかけに洋服をそろえて購入、楽しんでやっています。

9月10月の一斉班会のテーマはピンクリボン運動です。

乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを訴えるための活動です。班会で乳がんについて学び、自己チェックを行うとともに積極的に乳がん検診を受けましょう。

乳がん早期発見 必死の治療

柄澤好子

「うん？ ある!!」

左の乳房に、しこりを見つけたのは、昨年12月22日の夜。この日の午後、第10期健康づくり塾で、清水竹子

組合活動部長より、「乳がんの早期発見・早期治療、定期的なセルフチェック」の大切さを学んだばかりで、さっそく実行したのでした。気になりながら、(70才にもなつてまさかね。)と一斉

地方選挙のとりくみや、暮れの仕度に忙殺されていた。今年になって1月にも2月にもシコリを確認したので、いよいよ診療所で検査をしていただく。

3月16日には、がんと宣告され、乳腺外来の成田医師の丁寧で親切な対応のおかげで、佐久病院で検査(3日間ミッチリ)手術の運びとなった。

進行度は1で初期だったが胸骨

のリンパ腺にとんでいたので、手術は5時間かかり、場所が悪く取り残しがあるとの事。

退院して一ヶ月後、

放射線照射25回と電子線照射を8回受けるため、平日は毎日朝6時50分に出発し(駐車場が満車になるため)必死で、夢中で通院した。

高齢である事と、ホルモン療法が効くがんだったので、苦しい抗がん剤治療を受ける事なく、今は5年間の安定を目安に薬を服用している。

そして10年は通院しなければならぬが、負けないでがんばろうと思っている。

それについても上田市には立派な長野病院(現在信州上田医療センター)がありながら、遠く佐久まで通わなければならない不便さに、更なる地域医療の充実を切望せずにはいられない。また、健康づくり塾の重要性、参加の大切さを痛感した。(城下西支部)

組合員現勢

(8月31日現在)

- 組合員 14,685人
- 出資金 34,233万円
- 一人平均 23,315円

震災ボランティアに参加して

たにふじ としこ

8月8日から10日、上田地域のボランティアに加わって、岩手県大槌町に行きました。

実情をこの目で確かめ、孫たちに伝えたいと思っただけです。

メンバーは9人、うち1人は女子高校生で、若い人の参加をうれしく思いました。彼女は私たちと別行動で、お墓の整備、泥出し作業に参加しました。新盆を迎える方々が多いために急がれることでした。

私たちは現地ボランティアと一緒に、7月12日から入居が始まった250世帯の仮設住宅の駐車場を利用して、ブルーシートを敷いた青空市場で物資渡しをしました。幼児のいる若い世帯から1人世帯まで、入居層は多様で、多くの人が集まってきました。

お話しした何人かが「せつかく残った命だから生きていくよ」といわれました。私の心に重くひびき残っています。昼頃には、希望者全員に物資を渡し、片付けもす

みました。昼食は地元のボランティアさんの家で、コンビニのおむすびを食べながら、被災体験をうかがいました。

住んでいた家は平屋で、150cm位海水につきり、家財はいっさい流れたこと。救いは町内に声をかけまわり、裏山に全員避難してもらい犠牲者が出なかったこと。

1ヶ月位は毎日避難先から家を見に来たが、見ているだけで何もする気になれなかったこと。そのうち「今後どうするか」という声が上がりに、独り暮らしの自分の家を相談場所に提供しようと、片付けボランティアを頼んで3日かかった今の状態になったこと。

お話を聞いて、「復興しようとする力は、人と人がつながるときに出る」と気づかされました。

今何よりも必要なのは、被災者が普通の暮らしを取り戻せるように政府が責任を持って、知恵と力を集め、資金を出し、先頭に立つことだと思っていました。私たちも声を上げて応援していこうと思えます。

(北部支部)

原水禁大会

カンパ・署名の報告とお礼

原水禁長崎世界大会は8月7日～9日に開かれ、当生協から堀内あゆみ(上田看護師)、早川礼(川西介護福祉士)の若者2名が参加してきました。ご協力ありがとうございました。

カンパ 145、827円
署名 231筆

(8月30日現在)

原発ゼロ署名にご協力を

原発からの撤退と、再生可能な自然エネルギーへの転換は医療生協の方針です。この住民運動を進めるために、署名運動の要請がきています。当生協として取り組めますので、皆様のご協力をお願いします。

署名用紙は、事務局または支部長さんまで。

「山宣の碑」見学会

民医連の歴史を学ぶ職員研修で「山宣の碑」見学会を行います。みなさんも職員といっしょに学習しましょう。

日時 10月27日(木)13時

別所観光センター前集合

講師 山極悦男さん

人事



〔採用〕
蓬田 田美香 8月8日付
パート検査技師、上田生協診

田生協診 塩田在住

〔異動〕

依田 雅子 9月16日付

上田生協診療所師長へ(川西診療所師長より)

林 久美子 9月16日付

川西生協診療所師長へ

藤沢 秀子 9月3日付

ヘルパーステーションにじへ(居宅介護支援パートより)

〔退職〕
牛山 吉洋 臨床検査技師

9月15日付

長い間ご活躍ありがとうございました。

健康チエックサポーター養成講座修了

班会での健康チエック(血圧・尿・体組成・健康ファイル)を学ぶ、サポーター養成講座は8月8日行われ、10支部18名が参加、楽しく学びました。



原発問題

福島医療生協

原発事故の一日も早い収束と全面補償を！

— 原発事故対策委員会を設置して奮闘 —

大事故となった東京電力第1原発のある福島県の福島医療生協機関誌が伝える実情を紹介します。

生協内に「東日本大震災復興・原発事故対策委員会」を設置し、原発事故対策として、

- ① 災害によって発生している問題の把握と必要な支援
- ② 放射線被害から生命と健康を守るとりくみ
- ③ 被災の保障とエネルギー政策の転換を求めるとりくみ

などの方針を決め推進しており、東北地域における福島医療生協の役割は一層大きくなってきているとしています。

機関誌は報じています。

「福島医療生協の日常的な活動地域の一部である飯館村、及び川俣町山木屋地区は、計画的避難地域に指定され、山木屋地区は1年間の積算放射線量が20ミリシーベルトを超える32ミリシーベルトであることが分かり、農業の生産基盤である畑からも5690ベクレルもの放射線が検出され、作物が作れる土地ではなくなりまし

た。現時点で山木屋地区のほぼ百パーセントにあたる1200人あまりの人々が避難生活をしてい

ます。家族は引き裂かれ、住民の連絡網も整備されていない状態で、原発事故により地域社会は崩壊に瀕しています。そして現在、地区の専業農家は完全失業の状態となっています」と。

そして医療生協組合員で、今回の避難のためにたばこ栽培を断念、飼育していた牛も売り払った鴨原さん(総代)が訴えています。

「作物を作り上げるために、何十年もの歳月を費やします。セシウムの除去のために表土5センチを削りとったとしても、すぐ生産活動が再開できない。

再び農業を始めるためには、それまでの資金の援助と、軌道に乗るまでの生活保障をしてほしい、そして、避難者自身が自ら生きる力を取り戻し、次の一步を踏み出せる見通しを政府は示して欲しい」と。



読者の声

本誌で、「ピンピンコリ」は理想であって、現実はそのような簡単なものではない、と書かれてありました。確かに、いろいろお世話になりました、それから旅立つのでしょうか。

(青木村・女性)

青木村では住民の要求が実り、4月から人間ドックの助成が広がりました。今迄鹿教湯病院のみが助成の対象でしたが、何処で受けても助成がされるようになり、村民はとても喜んでいきます。健康増進につながる良いですね。村の医療費の節減にもつながります。(青木村・女性)

「ヘルパーステーションにじ」の体験報告で、皆さんのご苦労や喜びが紹介されました。大変なお仕事ですが頑張ってください。昔、姑も生協でお世話になり、本当に感謝しております。嫁いだ娘も最近ヘルパーの

理事会報告

第4回理事会 7月29日

田沢温泉富士屋ホテルにて

合宿研修会

- 議題 ① 2011年度東信医療生協運営スケジュール確認
- ② 就業規則の改定について決定。併せて育児介護休業法等に関する規定を承認
- ③ 11年度役員報酬決定の件
- ④ 支部活動援助金決定の件
- ⑤ 11年度強化月間の取り組みについて

仕事をしようになり、嬉しく思っております。(坂城南・女性)

震災と原発に明け暮れています。現地にかけつけて働く職員の皆さんには本当に頭が下がります。惨状を目の当たりに、折れそうになる心をどう持ちこたえているのか、私にもその強さが欲しいと願います。

(塩田・女性)

東日本大災害は、そのすさまじさに言葉を失いました。もし自分がそこにいたら何が出来るだろうか。遠くからすきなことを言うまえに、自分たちだったらどうするかを考え、行動する生活をとっています。東北の皆さん頑張れ！(新田・女性)

編集後記にあった「再生可能なエネルギーへの転換」は我々自身へのターニングポイントとして考えています。実行しなくては！(坂城南・男性)

研修会

① 定款による理事・監事の義務(任務)と責任について(理事長より問題提起)

② 内部統制システムの整備について(専務理事より問題提起)

第5回理事会 8月20日

冒頭監事より理事会報告あり。

- 議題 ① 2011年度強化月間方針の確立について
- ② 第7次5ヵ年計画の策定について
- ③ ボランティア交通費について
- ④ 支部活動交流集会について
- ⑤ 第22回健康まつりについて
- ⑥ 人事について

さかき診療所
健康のつどい

日時 9月25日(日) 9:00~13:00

場所 坂城町文化センター



川西診療所「健康のつどい」は、9月10日(土)開催、盛況裡に終わりました。詳細は次号で。

出会い・ふれあい・支えあい みんなでつくる健康まつり
東日本大震災復興支援

お出かけください 東信医療生協

第22回 健康まつり

と き 10月23日(日) 10:00~13:30

と ころ 上田市 塩尻小学校体育館

※ 駐車場は小学校校庭をご利用ください ※ スリッパをお持ちください



上田染谷丘高校ギター・マンドリン班の皆さん

● 各コーナー

- 元気づくりの健康チェックコーナー
骨密度・体組成チェック・AED体験など
- 各支部自慢の出店コーナー
うで自慢・味自慢 多数の出店コーナー

● 舞台出演

- 上田染谷丘高校 ギター・マンドリン班
- 青木村義民太鼓
- 支部・グループによる多彩な舞台出演
- 医療・介護・生活相談コーナー
- 医療生協加入・出資金受付コーナー

● 医療講演

「血液サラサラのお薬について」

上田生協診療所長

甲田 隆

東信医療生協健康まつり実行委員会 TEL 28-1085 FAX 28-6085

第10回 長野県高齢者大会

スローガン 「高齢者が安心して暮らせる社会をつくろう！」

日時 10月2日(日) 10時20分~15時

場所 上田市しんきんホール(上田信用金庫本店)

講演 講師 篠崎 次男 氏(日本高齢者運動連絡会顧問)

演題 「税と社会保障の一体改革案と高齢者の暮らし」

※ 開会前:バイオリン、ピアノ演奏 昼休み:コカリナ合奏

活動報告 ① 保険証交付されず死亡 ② 栄村復興へ向けて ③ 陽だまりネットの活動



